

# 自分のスキルをまちに活かす喜び。



地域おこし協力隊 **青嵩 直樹さん**

東京都出身の青嵩さんがIターンを決めたきっかけは、「鹿児島にある妻方のお墓を未来へ繋ぐため」。「九州移住ドラフト会議」をきっかけにさつま町に出会い、まちの人々と対話する中で「まちのことを自分ごととして考える」姿勢の方が多いことに惹かれて移住を決意しました。東京に妻と愛猫を残し2022年7月、単身でさつま町へ。地域プロジェクトディレクター（地域おこし協力隊）として、地域ブランドの推進を担当しています。「さつま町には、“気持ちよく笑い合える人たち”が多い」と話す青嵩さん。はじめての田舎暮らしも前向きに受け入れ、満喫しています。

## さつま町



妻方のお墓を繋ぐため、ひと足さきにさつま町へ。



移住のきっかけ、決め手はなんですか？

妻の実家が鹿児島で、鹿児島は結婚してから初めて訪れました。そのときの桜島が、光の影響だったのか七色のように見え、言い表せないほど感動したことを覚えています。



妻方のお墓を譲り受けることになり、将来的に管理していくためには定年してからではなく、少し前から個人として鹿児島に繋がりを持ちたいと思ったのが移住のきっかけです。「九州移住ドラフト会議」という、地域と都市部の移住に興味がある方を繋ぐイベントに参加し、さつま町の同年代の方々がまちの未来について、熱い想いを抱いていることに感銘を受け「この輪の中に入って自分のスキルで地域に貢献できれば、やりがいのある人生が過ごせそう！」と思いました。

妻は東京で仕事を続けたいと考えていたため、二人で話し合って、僕が先に鹿児島に行く決意をしました。

これからさつま町でやっていきたい事は？

今の仕事の延長で、まちづくり・にぎわいづくりを中間支援的な立場でお手伝いしていきたいです。

現在、東京で過ごしている妻が「鹿児島って面白そう！」と思い、さつま町に来るのが楽しみになるよう、僕自身も楽しみながら町の魅力、鹿児島の姿を伝えていきたいです。



季節の風景と、北薩の名峰、紫尾山からさつま町を望む（青嵩さん撮影）

さつま町でどんなお仕事をしていますか？

地域プロジェクトディレクター（地域おこし協力隊）として、地域ブランド「薩摩のさつま」の推進をしています。事業者さんのところへ取材に行き、紹介冊子を作ったりSNSで発信したりしています。仕事を通して事業者さんとじっくりコミュニケーションを取れたことは、自分を受け入れてもらうきっかけになりました。学生時代から続けている写真も活かしています！自分のやったことにダイレクトに反応が来る仕事はとてもやりがいがあります。



地域ブランド「薩摩のさつま」



青嵩さんが取材・編集されている記事のリンク

さつま町のどんなところが好きですか？

自然はもちろんですが、さつま町のことを真剣に考えている方々がとても魅力的です。

また、移住前後で大きく違うのが食費で、東京の1/2～2/3くらいの印象です。やはり地産の食材はおいしく、量が多くて助かっています。野菜をたくさん食べる機会が増えました。農産物やお米をいただく“おすそ分け文化”を体験し、東京ではなかったお付き合いだなあと実感しています。



黄金色の稲穂・実り秋（青嵩さん撮影）

これから移住を考える人へのアドバイスは？

移住前から、役場の方と定期的にオンラインで話をする機会があり、住まい探し等で苦労はなかったです。

移住を考えている方は、一步踏み込んだ視察をしたり、地域の人とコミュニケーションを取られる事をオススメします。時間をかけて素敵な事を、場所を見つけてほしいです。

まちの事業者さんからのコメント  
堀之内力三さん（堀之内酒店）

青嵩さんは、人柄、スキル共に素晴らしく、まちの人と打ち解けるのも早かったです。「薩摩のさつま」の仕事だけでなく、いろいろな相談ができ新しい目でアドバイスをもらえて嬉しいです。地域の人たちも青嵩さんのことがとても好きです。かなりの覚悟を持ってさつま町に来られたと思うので、応援していきたいです。



DATAで鹿児島と東京の暮らしを比較

例えば東京に比べて鹿児島で安く買える物には、地産地消の産物などがあります。地元の農家が作る野菜や果物などの農産物、海や川の幸などです。ほとんどの場合東京に比べて安く手に入りますので上手に利用してみてください。

出典：令和3年小売物価統計調査

さつま町



是枝商店 店主 是枝 樹さん

ショーケース越しに、赤・黄色のアクセントが可愛いおまんじゅうがずらり。ここは創業125年の和菓子屋「是枝商店」。店に入るとガシャンガシャンと規則正しい製菓機の声。米粉とあんこのどこか懐かしい香り。「10個」「20個」と予約したお客さんがまとめ買いしていきます。この「いちごまんじゅう」を受け継ぐのは四代目・是枝樹さん。東京で10年間飲食業に関わり、新型コロナウイルスの感染拡大を契機にUターン。帰ってきた先には、故郷のために挑戦し支え合える仲間がたくさんいました。「いちごまんじゅうがきっかけでさつま町に人が訪れてくれるよう、発信力を入れたい」と優しい笑顔で語っていただきました。

# さつま町

Uターン  
U-turn

明治31年創業の  
和菓子屋4代目としてUターン。



移住のきっかけ、決め手はなんですか？

私は3兄弟の真ん中で、兄も弟も別の仕事をしているので、後継ぎは自分かなと思っていました。

専門学校を卒業後、東京のバスタ屋で働きながら、深夜はカラオケ店でバイトなどをしていました。仕事に追われ睡眠時間も今よりずっと短くて不規則でしたが楽しくやっていました。今思えば、人間らしくない生活ですね(笑)。

移住のきっかけは、新型コロナウイルスの感染拡大です。東京の感染拡大や働いていた店の経営悪化などから、地元で家業を継ぐことに決めました。



これから移住を考える人へのアドバイスは？

困ったことがあったら、役場の人に声をかけてください。いろんな人を紹介し、つなげてくれると思います。私も東京から帰ってくる際はサポートしていただきました。

あと、運動をするよう心がけるといいですね。都会だと電車やバスに乗りますが、さつま町では、どこへ行くにも車が当たり前です。意外と都会より動かないので、肉付きがよくなりました(笑)。

さつま町でどんなお仕事をしていますか？

2020年11月にUターンし、和菓子職人として修行しています。朝6時から仕込みを始め、1日に300～400個づくり、早い日には昼過ぎに売り切れます。面白いお客さんがたくさんいらっしゃるんですね。高級車の社長さん、よくしゃべるおじさん…ニックネームをつけて呼んでいます(笑)。

両親が「好きにやってごらん」と言ってくれるので、作り方は自分なりに工夫を重ねています。

あんこを練る時の火加減や砂糖を入れるタイミングを変えると、すっきりと食べやすい甘さになりました。「おいしくなった」と言われてうれしいです。



店先のショーケースには朝から出来立ての「いちごまんじゅう」が並ぶ

さつま町のどんなところが好きですか？

ゆったりとした田舎の空気が好きです。お客さんと世間話をしたり、団らんの時間があるところがいいと思います。Uターンしてから役場に顔を出すようになったのですが、みなさん自分の顔を覚えてくれて、飲み会に誘ってくれたり、「帰ってきて大変だよなあ。悩みはないか？」と気にかけてくれたりするんですね。あらためて、良い人たちが多くいるところだと故郷のありがたさを感じています。

## DATAで鹿児島と東京の暮らしを比較

例えば、サラリーマンは自宅から職場までの通勤があります。平均的に通勤時間の長い東京では通勤時間が睡眠時間を削っている可能性もあります。また、忙しい現代における睡眠は、「質」の向上が求められています。広い意味で地方に暮らしやすさで、ストレスフリーに近づくことができるかもしれません。

出典：令和3年社会生活基本調査

これからさつま町でやっていきたいことは？

是枝商店を県外の人々がさつま町にくるきっかけとなるような場所にしたいと思っています。

Instagramを始めたのですが、その効果で若い方や県外からのお客さんが増えてきました。いちごまんじゅうを食べるためにさつま町に来たという方や、「こんなおいしい和菓子、初めて食べました！」と言ってくれる方がいて、やりがいを感じています。どんどん外に発信していきたいです。



是枝商店の四代に渡って作られる「いちごまんじゅう」黒糖入りの餡をさつま町産の米粉の餅で包んだおまんじゅう。中にいちごが入っているのではなく、白いいちごの花が黄色、赤色の実に色づく様を表しています。一菓子店一菓名にこだわって作られる唯一無二の品です。

## 中学の同級生からのコメント／中間晴乃さん

戻ってきて、お店の跡継ぎをしていると知った時、すごいなと思いました。さつま町で暮らす身として、帰ってきてくれて本当に嬉しいです。自分もがんばろうと思えます。いちごまんじゅうは幅広い年代に好かれるので、手土産の定番です。



## 平均睡眠時間

